

弓浜特産物の経営を引き継ぐ鈴木農園経営発展プラン

米子市 ■■■
鈴木 正道

1. はじめに

わたしは平成27年2月にアグリスタート研修を経て施設イチゴで就農し今年で6年目になります。新規就農計画期間中は、イチゴを主体とし、平成29年からは露地栽培のニンジンを加えました。その合間に義母の葉たばこ栽培も一部手伝いながら営農してきました。就農当初から義母の年齢も■才であったことから葉たばこを経営継承することも考えてはいましたが、就農当初はイチゴの規模拡大や観光農園など、イチゴでの経営展開をイメージしていたことから、まずはイチゴを主とした経営での自立を目指していました。

現在、イチゴについては、やっと収支がプラスマイナスゼロになってきましたが、全量個人出荷なので、個人の評価がそのまま販売実績につながる状況になります。初年度から取り組んできた朝採りにこだわり、JA直売所への出荷は、昼を過ぎることもあります。多くの専売顧客も出来、常に完売状態となり生産者として喜びを感じています。栽培面では、4年間試行錯誤してようやく定まった栽培方法のもと、昨年作は定植株が少ないなかでも収量、販売額も過去最高でした。これからもまだまだ発展性を感じる品目でやりがいを感じてきたところです。しかし、年々体力が落ちる義母から経営を移譲したいとの申し出があったため、来期より義母の葉たばこ経営を継ぐことにしました。すでに名義変更も行い来期の契約も完了しています。経営を引き継ぐにあたり、たばこ栽培のノウハウは義母からの教えがあり、作業機械についても現状で譲り受けることになったのですが、ニンジンと葉たばこの調整作業等を行う作業場については、一昨年に祖母が亡くなり義母の弟（叔父：白ネギ専業農家）が家を継ぐことになったため近いうちに実家の作業場を使うことができなくなります。そこで、このがんばる農家プラン事業を活用し、イチゴ、葉たばこ、ニンジンの出荷調整作業等が行える作業場を設け、これらの弓浜特産作物である葉たばことニンジンを増反した我が家の経営を発展させていく新たな将来ビジョンを立てるに至りました。

2. 現状

現在の経営品目別の状況

【イチゴ】

ハウス3棟 (6m×50m) と育苗専用のハウス1棟 (6m×50m) で、無加温の促成栽培を行っています。R2年度の栽培品種は、章姫、よつぼし、とっておきの3品種で、栽培株数は、章姫2000株、よつぼし3000株、とっておき1000株の計6000株です。

- 章姫：山陰の冬期寡日照の気候に適した品種で収穫量も多く県内でも主流の品種。育苗期に炭疽病に弱く、発病すると多湿条件で蔓延するため大雨が多かった近年の気候条件には適さなくなっている。
- よつぼし：種子から育てるF1品種。現在は406穴プラグ苗を購入。育苗期は手間かからない。
- とっておき：鳥取県で育種されたオリジナル品種。食味も良く、年々県内でも認知度が上がっている。

これまでの栽培では、苗発注ミスや病害（炭疽病）の発生で苗の確保に苦労し、予定本数の植付けができなかったために反収が上がりませんでした。しかし、今作は6000株を定植できたので自ら確立した栽培管理でいくと過去最高の収穫量が見込める予定です。

収穫後の出荷調整作業は、ハウス脇に設置した8畳間ユニットハウスでバック詰めを行っています。

販売先とその割合は、JAの直売所（アスパル）に9割、直売（ハウス横の作業場）1割です。

表1 就農からのイチゴの栽培・販売状況

年	植付本数（品種構成）	出荷量	販売額	備考
27年	4000（章姫）	0	0	親苗発注ミス
28年	4500（章姫 とっておき）	2000kg	■■■■円	育苗ミス
29年	4200（章姫 とっておき よつぼし）	2600kg	■■■■円	育苗中炭疽病多発
30年	4500（章姫 とっておき よつぼし）	2250kg	■■■■円	育苗中炭疽病多発
R1年	4300（章姫 とっておき よつぼし）	2534kg	■■■■円	育苗中炭疽病多発

集計期間は1月～12月

【ニンジン】

※栽培管理

葉たばこの後作として4カ所に作付けして4年目になります。播種は、8月下旬から順に行います。品種は、JA指定品種の彩誉のみ。前年は9月8日に播種。病虫害、台風の被害で15a分の減収量でした。今作は、8月24日と9月10日に分けて播種したのですが、8月24日分（30a）が台風の強風による飛砂で20a分が埋もれてしまいました。10aは播種し直しましたが、埋もれた部分は生育不良となり減収の見込みです。一方、9月播種分は順調に生育しており年明けからの出荷の予定です。

※出荷手順

収穫後は、①洗浄機で洗い②水切り後にサイズ選別③個選出荷用に箱詰め梱包④出荷。販売先は、JAへの個選出荷、アスパル、生協（契約栽培）です。

表2 ニンジンの栽培・販売状況

年度	作付面積 (品種構成)	出荷量	販売額	備考
29年	20 a (彩誉)	0	0	雨害
30年	40 a (彩誉)	6000kg	■ 円	
R1年	60 a (彩誉)	22100kg	■ 円	台風 病害
R2年	60 a (彩誉)	21000kg	■ 円	台風強風被害

表3 減価償却資産および借用機械の一覧

資産名	導入年	取得価格(円)	補助金名
ビニールハウス3棟		■	
育苗ビニールハウス			
高設ベンチ			
ハウス内張			
灌水施設			
フルタエアビーム			
セット動力噴霧器			
電気設備工事			
軽自動車			
播種機			
灌水ポンプ一式			
三協ハウス中古			
みのるプチ耕耘機			
肥料散布機			
ボンゴトラック			
種			

借用機械(義母所有)

施設・機械名	用途
トラクター(225馬力) 1台	耕耘、ほ場整備
管理機(6馬力) 1台	播種
エンジン洗淨機	洗淨
エンジン掘り取り機(10.5馬力・乗用) 1台	掘取り
作業場	洗淨、箱詰め等

※借用機械等は無償

3. 今後の目標

現状を踏まえ、義母の経営を引き継いで経営発展していくための目標を品目毎に決めました。

【イチゴ】

- ①反収2520kg/10a→3600kg/10aに増やす
- ②イチゴの収益を上げる

【エンジン】

- ①反収向上(2342kg→4000kg/10a)

【葉たばこ】

- ①反収の維持。(27.9kg/10a→280kg/10a)

【共通事項】

- ①効率的な作業体系の確立

4. 課題と解決方法(対策)

【イチゴ】

- ①反収2520kg/10a→3600kg/10aに増やす

課題：炭疽病による欠株(育苗～定植後初期)の多発、育苗時の他作物との労力競合。

対策：べた置き→育苗棚の新設、定植苗の外注増(3割)、品種よつぼしの苗増量。

ハウスの立っている圃場は多雨時に完遂する立地のため現状のハウス床面に直置きの育苗様式では夏季高温時の多雨により炭疽病に感染しやすい条件になることがある。この対策として育苗を高設化と底面吸水できる自動かん水装置の設置(ベンチ育苗棚の新設)により炭疽病菌の感染経路を遮断し健全な育苗環境を整える。

次に、労力競合については育苗後半(8月～9月)葉タバコの収穫、エンジンの播種作業が重なりイチゴ苗へのかん水(手かん水では3時間/日を要する)や防除が不十分になってしまうことで草勢が劣り炭疽病に感染しやすくなっている。昨年は、初めて章姫2000株を外注して苗へのかん水時間を短縮し対応した。外注苗に炭疽病の感染があり定植後に240株の植え替え、10

0株の欠株となったものの、よつぼし3000株（鉢上げ自家育苗）とっておき1000株（自家育苗）での炭疽病の発生はほとんどなく健全苗の定植ができた。

R1年 2637kg÷4300株=610g/株 約490万円÷2637kg=1,858円/kg
今作 6200株（欠株340株）5860株×610g=3575kg
3575kg×1,858円=6,642,350円

苗代の増加経費は全量自家育苗の場合、苗代198,000円 なのに対して
外注を行う場合は

章姫 120円/株×2000株=240,000円
よつぼし406穴/トレイ×8トレイ=3,248株 22,500円/トレイ=198,935円(税込)
合計438,935円となる。

②収益を上げる

課題：販売単価を上げるより収量向上。

対策：作業場の一部に直売所を設け、既存の地元地域の顧客へより新鮮な品質のイチゴの提供とお得感+そこからの口コミ拡大で新規顧客の獲得を図る。

これまではアスパルでの販売を主に行いお得意さんもついてきているが、近年大小のイチゴ生産者が増えたことで、今後は米子地区でのイチゴ出荷量の増加が見込まれるため、出荷ピークには他農家との価格競争によって価格低下を余儀なくされることから、消費者により近い販売方法の直売を増やしていく。

ただし、販売価格は現状を基準にしていきたい。それは、就農してからの5年間で、アスパルと直買で顧客の獲得ができたのは、美味しいのは最低条件で、朝採りのこだわり、価格を変えずに販売してきたことが今の結果につながっていると考える。就農初年度はアスパル日吉津店の売上が■■■■円であったが、一昨年からアスパル浜店の売上が上回りR2年は、浜店が■■■■円、アスパル■■■■円、直売が■■■■円であった。絶対量が足りないためアスパル（日吉津店・浜店）と直売では注文を断る状況でした。そのため、収益を上げるには生産力を上げニーズに応えることが第一だと考える。単価や戦略的な販売での収益拡大は、それが実現出来た後での問題になると思う。

【ニンジン】

②反収向上（2342kg→4000kg/10a）

課題：自然災害（多雨、強風）による減収

対策：排水性の良い圃場の選定と排水対策の徹底および飛砂対策の実施

現在のほ場は、義母が葉タバコ、ニンジンともに収量をあげれるほ場を選抜してきたが、近年の多雨での圃場冠水や瞬間的な強風による飛砂での葉たばこの葉傷みや発芽間もないニンジンの埋没によって出荷品質の低下や減収を招いている。

これに対して、離農したたばこ農家の排水性の良い圃場の新規借り入れを行い、土壌消毒、麦播き、藁をすき込み等の土づくりも実施し災害に備える。

また、飛砂については、淀江地区でも実践事例のある圃場額縁へ緑肥（ソルゴー）による防風壁を設置する。

【葉たばこ】

①反収の維持。（279kg/10a→280kg/10a）

課題：自然災害（雨害）

対策：圃地の排水路の確保し水はけを良くする。

ほ場の回りに深く掘り下げた側溝を作り雨水を排水用の側溝に誘導する。大雨時は排水用エンジンポンプも使い強制的に排水する。

【共通事項】

・効率的な作業体系の確立

課題：作業場所の分散と手狭な作業スペース

対策：作業場を一つにまとめて作業効率を上げる為に新たに作業場を設ける。

これまでは、イチゴはハウス横のユニットハウスで、ニンジン、葉たばこは義母の家で場所が分散していたため作業ごとに移動していた。

現在のイチゴの出荷作業場は現状でも手狭で、今後収量の増と出荷資材等の置き場所も必要となる。

農業を営む上でいちばん大事なことは作業段取りと作業効率を良くすることであると考えている。そのためには居住する家と作業場と畑（ハウス）が近くにあり、どの作業を行うにも動線が短くスムーズで時間がかからないのが理想である。あたりまえのことではあるが、一日の作業時間は限られており、一つ一つの作業や別々の作業を効率よくおこなうためにも集約された作業環境を作ることが最大の段取り力につながると思う。

新規作業場の利用方法

イチゴ：出荷調整作業、資材

ニンジン：洗浄選果および出荷調整、収穫物、出荷資材の一時保管。

葉たばこ：収穫後の調整作業、乾葉の保管、調整。選別梱包等の出荷準備。

役割分担

作目	課題	解決策	事業費 (千円)	役割分担		
				県	市	本人
イチゴ	反収向上	育苗棚新設、定植苗の外注増				○
	収益向上	収量向上、直売スペース確保				○
ニンジン	反収向上	排水性の良い圃場の選定と排水対策の徹底および飛砂対策の実施				○
葉たばこ	反収向上	圃地の排水路の確保				○
共通事項	作業効率化	作業場建設(R3年)	12,553	○	○	○

